

ひとくちに「情報管理術」といってもこれは大変難しいんですが、私はまず情報をいかに整理するかがポイントだと思いますね。この点、私は余り得意な方とはいえないんです。実は、学生時代からノートをとるのが苦手で、会社にはいつて会議をしてもメモはとらないというよりはとれない。若いうちはそれでも良かったんですが、年をとると、どうも物忘れが激しくて、どこに何があったのか忘れてしまいます。いわば情報を整理しきれないんです。

情報といつても、いろいろありますが、新聞、雑誌などいわゆる活字情報は、必要性から自分でよく分類、整理するんですが、私ののは『八方破れ』の整理とでもいいでしょうか。ファイルした時は覚えているんですが、月日が立つと、どこに何をしまったのか忘れてしまふ。イケマセンネ。こうなると、情報の『宝のもちぐされ』ですね。

そこで、今から15年ぐらい前ですか、当時としては珍しかった4段スチール製キャビネットを自宅に買いました。文献などを項目ごとに整理しはじめたんですが、なかなか思うようにいかない。そこで思いついた方法が情報が発生した順序で積んでいく方法なんです。つまり『何年何月頃』をキーワードにして思い出していけばいいんですね。きわめて

原始的な方法ですが、こうしたら忘れない。大切なものは、どんな情報がどこにあるか、そのありかを知っていれば、それでいいと思いますね。なんでも自分でやるといのはムダで『他人の禪で相撲をとる』情報の整理の仕方を見つけた方がより有効だと思いますね。

他人の禪で相撲をとる

山陽国策パルプ株式会社
計数部 部長 芳賀敏郎

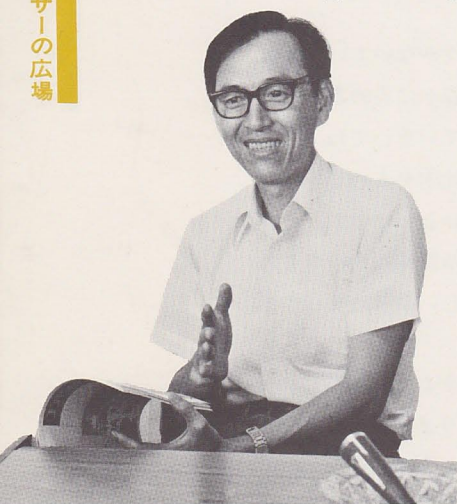
とにかく、私達の周りには、情報が多すぎて消化不良を起している状態ですから、情報を有効に整理することによって消化不良をなくすることができるんじゃないでしょうか。次に、じゃその整理した情報を今度はいかに活用していくかということがあります。

これは、私の体験上から、統計的な考え方が役に立つと思いますね。といいますのは、私流の言葉でいいますと、統計とは『情報を濃縮する技術』ですから、できるだけ、個々のデータの意味や、情報の特質を失なわないで、情報をグラフや表でまとめていけば、簡略化できるし、情報をスピーディに、しかも

正確に伝えられると思います。

この良い例が、私どものコンピュータのプログラム作成時に採用している「デシジョンテーブル」にも見られるわけですが、なにもあれ、情報というのは個々の情報をバラバラに記憶するのではなく、情報間の関係をよく理解し、記憶することが大切なんですよ。『情報関連図』的な発想というべきでしょうかね。そのロジックに必然性があればなかなか忘れないものですよ。情報、それは人間相互の信頼関係の上に成り立ったコミュニケーションの道具ですから、『血のかよった』情報にしていききたいですね。

というのは、私は情報という言葉は、なまじとか心を動かすとかいわれる『情』と、知らせるといふ『報』からなる、つまり、『心を動かす知らせ』という意味だと思っております。したがって、私の仕事とかかわりのある、コンピュータの出力情報もまた、受取った人の心を動かすようなものでなければならぬわけです。紙くずにならないように注意したいものです。



ユーザーの広場

